

アライプロバンス

浦安の物流施設建設工事で上棟式

10月末竣工、3つの「庭」を構想



新井社長（左）と新井専務

アライプロバンス（本社・東京都墨田区、新井喜雄社長）は4月28日、千葉県浦安市で建設中のマルチテナント型物流施設「浦安市港物流センター」（仮称）の上棟式を執り行った。「鉄打ちの儀（仮称、本締め、検査）」の後、鉄骨梁への関係者の記名がなされ、集合記念写真を撮影。クレーンで最後の鉄骨梁を吊り上げる「吊り上げの儀」が行われた。

「浦安市港物流センター（仮称）」は延床面積約3万4500㎡の鉄骨造地上4階建て。アライプロバンスの物流施設開発の第1弾で、昨年8月7日に地鎮祭を実施し、今年10月末の竣工に向けて順調に工事が進んでいる。

立地は首都高湾岸線浦安ICから約3kmで、巨大消費地と京浜港、首都圏空港（成田・羽田）、JR貨物の東京貨物ターミナル駅などの主要物流拠点と好アクセス。施設は2階にスロープを設置することによって1・4階、2・3階の2層利用が可能となっている。

上棟式後、取材に応じた新井社長は「当社の新規事業における初の物件であり、順調に工事が進み、こうして上棟式に参加できたことに感激をおぼえた」とコメント。新井太郎専務も計画通りに工事が進捗していることを報告した。

また、敷地内に「四季の庭」「海の庭」「道の庭」と3つのコンセプトの

中庭を整備し、デザインを建築家（一級建築士）でクリエイティブディレクターの菅原大輔氏が担当することも明かした。

新井専務は「『四季の庭』にはありきたりでない植物を植え、『海の庭』には海をイメージしたテラスの設置も構想している。『道の庭』については、現在、おもしろいアイデアを考えている」とし、グッドデザイン賞の受賞に意欲を見せた。

現在、入居に関する多くの引き合いがあるが、引き続きテナントを募集中。「ラストワンマイルの物流に貢献したい」という思いがあるが、業種を問わず、最もマッチしたお客様と契約を結びたい」と述べた。

開発第2弾となる江戸川工場跡地での物流施設開発に関しては、「浦安の敷地の4倍程度あり、カフェテリアやコンビニエンスストアといった付帯設備を充実させ、（デザインも）川との親和性を重視した楽しい施設としたい」と展望。

今後の事業展開に関し、「城東地区ナンバーワンの総合不動産カンパニーとして、物流施設のみならず、マンション、商業施設、オフィスなどあらゆるアセットを対象に、開発、売買、仲介、賃貸、コンサルティング、鑑定の一環に対応していきたい」と語った。



最後の鉄骨梁を吊り上げた